

事務事業評価表 平成23年度

政策 豊かさ創造性を育む生涯学習環境の充実
 施策 市民スポーツ活動の充実
 基本事業 スポーツ・レクリエーション施設の充実

事業名 **青年センター改修整備事業**

[0502]

部名	教育部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	生涯学習課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>青年センター</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>施設を良好な状態に保つことにより、スポーツ活動の場が確保される。</p>
	手段
	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>昭和47年1月に建設され、施設の老朽化が進む中、安全かつ快適に市民がスポーツに親しむことのできるよう施設の改修整備工事を行う。指定管理者が施設の管理運営を行っている。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度当初
対象指標1	敷地面積	m ²	5,369	5,369	5,369	5,369
対象指標2	床面積	m ²	3,567	3,567	3,567	3,567
活動指標1	整備箇所数	箇所	0	0	0	1
活動指標2						
成果指標1	年間体育館等利用者数	人	58,010	59,266	63,700	56,500
成果指標2	年間プール利用者数	人	49,671	47,766	45,537	57,000
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	0	0	0	17,567
正職員人件費 (B)		千円	0	0	0	407
総事業費 (A) + (B)		千円	0	0	0	17,974

費用内訳	
22年度	

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	施設の老朽化が進む中、安全かつ快適に市民がスポーツに親しむことのできるよう施設の改修整備を行うが、突発的に修繕が必要な事態が生じていることから、修繕計画を立てづらくなってきている。
--------	--	-------------	--

22年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
 妥当である
 妥当性が低い

理由・
 根拠は？

市民がスポーツ活動を行う上で、活動の場の提供は不可欠であり、その施設の老朽化に伴う不具合を解消するために整備を行うことは、妥当である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
 貢献度ふつう
 貢献度小さい
 基礎的事務事業

理由・
 根拠は？

市民がスポーツに親しむ機会を提供しており、市民の身近にあるスポーツ施設を適切に維持・保全することは不可欠である。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

あがっている
 どちらかといえばあがっている
 あがらない

理由・
 根拠は？

平成18年度に、施設の診断結果に基づき、配管などの大規模な改修工事を行ったことから、施設を適切な状態に保つことができ、利用者数が回復している。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
 成果向上余地 中
 成果向上余地 小・なし

理由・
 根拠は？

当施設は、体育室・研修棟のほかにプール施設を備えていることから、水泳等の利用が活性化すれば、利用者が増加することが期待できる。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある
 ない

理由・
 根拠は？

日常管理の中で整備できる場所は、メンテナンスを行っているが、施設の老朽化に伴う突発的な修繕が必要になることが多く難しい。